

平成18年度事業計画書

基本的な考え方

(平成17年度活動の評価)

平成17年度は、設立15周年事業の持越負担の解消を最優先課題とし、一部の継続的活動を休止、新規計画を見送ることになった。その結果、人材事業を除く活動は停滞し、「愛・地球博」開催という絶好の時期に、外部へのアピールに支障を来たすことになった。事業活動が停滞する中、次年度の事業活動と財務の正常化を目指してきたが、収益基盤の改善は容易ではなく、確信的な見通しに苦慮していた。幸い(株)テー・オー・ダブリュー殿のイベント大賞への協力申し出があり、来年度事業の遂行に大きなバックボーンを得ることが出来た。これにより、次年度の前向きな事業計画に結び付いた。

(平成18年度の取組み)

17年度停滞した事業活動を立直し、積極的に協会をアピールすることが重要である。特に外部に対するPR、即ち協会の存在、活動・サポート内容をあらゆる機会、方法を使って訴える。「日本イベント大賞」はこうした広報、PRに格好の材料であり、イベント業界、関係者への浸透を図っていく。また、公益法人の事業としてセミナー関係の体系化、メニュー化の事業基盤の整備を図る。

1. 第2回「日本イベント大賞」の実施

協会のシンボリック活動として「日本イベント大賞」を開催する。今回は継続可能な自主事業として、国内で唯一のイベント表彰制度として確立させる。また、(株)テー・オー・ダブリュー殿の特別協力および会員の任意の協賛もあり、広報・告知活動を強力に進め、応募への働きかけを通じて賞の価値を高める。

2. セミナー事業体系の構築

公益法人としてセミナー事業は会員外との接点ともなり、比較的有利な立場にある。従来から各本部でセミナーを実施してきたが、スポット的な印象があった。協会全体のセミナーを体系づけ、メニュー化することで対外的に分かりやすい事業として構築を図る。しかし、既存の協会セミナーだけでは事業としての体系化は困難である。事業の基盤となるメニューの作成・拡大、コンテンツの開発、講師の確保等が必要であり、今年度、これら基盤の整備について会員の協力、支援をお願いしたい。

3. 高度イベント人材向け教材、教育プログラムの開発

協会の事業基盤の強化のためには、人材育成事業の収益拡大が必須である。集客交流サービス産業の担い手として、高度なイベント専門家が求められている。また、大学でも実践的教育プログラムとしてイベント講座のニーズは高い。こうした要請に応え、昨年度は諸事情で見送った「イベント業務管理者」(専門編)の改訂に着手する。高度なイベント専門家の育成を通じて、人材事業のインフラを強化していく。

平成18年度事業計画一覧

1. 基軸事業

1. 人材育成事業
 1. 教育事業
 2. 資格制度事業
 3. 日本イベント業務管理者協会との連携強化
 4. イベント産業人向け教材、教育プログラムの開発、作成
2. 支援事業
 1. 第2回「日本イベント大賞」の実施
 2. セミナー事業の収益拡大
 3. 地域活性化とイベント（集客交流）プロジェクト
3. 調査研究事業
 1. 市場規模推計とイベント情報ファイル
 2. イベント実態についての独自調査
 3. 受託研究調査
 4. セミナー研究会の実施

2. 普及事業

1. 情報提供事業
 1. イベント情報誌「クリエイティブイベント」の発行
 2. イベント情報提供サービス
2. 普及啓発事業
 1. イベントおよびイベント施設等の視察
 2. 広報活動の強化
 3. 関連団体との交流

3. 会員活動事業

4. 委員会活動

1. 事業運営委員会
2. 特定事業委員会

5. 会員拡大活動

1. 基軸事業

1. 人材育成事業

人材育成はイベント振興のインフラであり、協会の重要な使命として資格制度を軸に事業を展開している。社会のあらゆる階層、局面にイベントが浸透し、今やイベントの専門家だけがイベントに携わるという時代ではなくなっている。教育・資格事業の立場から見るとイベント関心層から高度な専門家層まで、その対象が広がっているということである。こうした状況認識に立ち、人材育成事業の中期的な発展を図るため 大学および有力専門学校での講座開設の拡大 行政のイベントセミナー、カルチャーセンター等市民層への浸透 イベント業務管理者資格のPR、受験者拡大に取り組む。これらに対応するためにイベント業務管理者協会（JEDIS）との連携の強化、講師陣の充実、イベント専門家や高度人材を対象とした「JACEイベント講座」（専門編）の作成に着手する。

1. 教育事業

イベントの多様化、高度化、ニーズの変化に対応するため、全面改訂を行った「JACEイベント講座」（基礎編）を活用し、イベントに興味を持つ人、小規模なイベントに携わる人向けの教育、普及活動を推進する。

学校教育

一昨年来、専門学校、大学への講座開設を重点的に進め、18年度には京都嵯峨芸術大学、江戸川大学の新規開設、専門学校では東京ビジュアルアーツ（新規）、日本工学院（講座増枠）など成果が上がっている。少子化による学校間競争で新規性のある講座が求められており、イベント講座に関心を持つ学校も少なくなき、これらへの継続的フォローに取り組む。また、各教育機関のカリキュラムを補完するため、専門学校生を対象とするインターンシップ制度の充実に努める。

通信教育

通信教育は産能大学運営と協会運営の二系列を開設しており、年間200～300人が受講している。イベント関心層、一般市民層への浸透を図るため、イベント検定と結びつけたPRに努める。カルチャーセンター、NPO、行政のイベントセミナー等の機会や協会行事、刊行物を活用したPRを実施する。

研修セミナー

NPO、カルチャーセンター等イベントに関心持つ層、自治体、地域リーダー等業務の中でイベントに関わりを持つ層に研修等を実施して、通信講座やイベント検定へ繋げる。また、イベント業務管理者養成セミナーの実施、自治体・団体が実施するイベント研修セミナー等に対する講師派遣、教材提供、企画運営の支援を積極的に推進する。

2. 資格制度事業

「イベント業務管理者」「イベント検定」資格制度のPRを図るとともに、当該資格

試験を効率的、円滑に実施運営する。停滞気味の「イベント業務管理者」の受験者を増やすため、地方試験場の設置（JEDIS連携）、中小イベント業者、コンベンション施設などを中心に業務管理者のイベント事例の紹介、指定管理者制度などをテコに受験者増を図る。また、人材育成事業の維持、拡大に向け受験要件、試験方式等現状の枠組み見直しを行う。

資格検定試験

第10回「イベント検定試験」、第13回「イベント業務管理者」資格試験第一次試験、同第二次試験を実施する。

資格登録

平成17年度実施第12回「イベント業務管理者」資格試験合格者の登録手続き、並びに、第3回（平成8年度）、第6回（平成11年度）及び第9回（平成14年度）資格登録者の更新手続きを行う。また、平成18年度実施予定の第10回「イベント検定試験」合格者の登録手続き、ならびに第5回（平成13年度）登録者の更新手続きを行う。

「イベント業務管理者」への情報の発信強化

イベント業務管理者に対する情報発信の強化（コミュニケーションニュース、ニューズレター、JACEホームページ）ならびに「日本イベント業務管理者協会」（JEDIS）への入会促進を積極的に行う。

3. 「日本イベント業務管理者協会」との連携強化

昨年度、「イベント業務管理者」の業務経験、専門知識の活用を通じ、業務管理者（資格）のプレゼンス向上を目的に「認定研究員」制度を立ち上げ、30名を認定、今年度から本格的な運用に入る。当面はJACEの広報活動（情報収集と協会活動、資格制度のPR等）、教育・資格事業の拡充（専門学校・大学、自治体セミナーの講師、資格試験の面接官等）、イベント教育、人材育成活動への参画等の活動を実施する。また、国の施策である「地域サービス産業の革新」や「集客交流サービス人材の育成」に貢献すべく、「地域活性化センター」の地域アドバイザーへ登録し、イベント業務管理者の活動機会の提供およびJACEの存在を関係機関に発信していく。

4. イベント産業人向け教材、教育プログラムの開発、作成

昨年度見送ったイベント業務管理者向け教材（専門編）の改訂に着手する。一昨年作成した基礎編にリンクし、イベント専門家であるイベント業務管理者および本格的な大学向けを兼ねた教育プログラム、教材を2年程度かけて作成する。集客交流サービス産業の担い手として、より高度なイベント専門家が求められている。また、大学でも実践的な教育プログラムのニーズが高まっており、こうした状況に対応し、人材事業拡大のために今年度より作成に着手する。

2. 支援事業

一昨年、設立15周年記念事業で実施した「日本イベント大賞」を、自主事業として新たなスキームで開催する。これを機に関連団体（日展協、全展協、日デ連、JETRO、能率協会など）との情報交換を図り、情報収集と共通課題への取組を行いたい。

「日本イベント大賞」は協会アピールの最大の機会であり、ツールとして活用する。

また、会員間交流のため共通的テーマの勉強会や発表会の場を作っていきたい。昨年、開催した人材育成やスキルアップ関連のセミナーは好評で、さらにブラッシュアップして実施していく。これらの活動を通じて会員の勧誘、拡大を図っていく。

1. 第2回「日本イベント大賞」の実施

一昨年実施した「日本イベント大賞」を新たなスキームで実施する。「日本イベント大賞」は優れたイベントとイベント人材を顕彰して、イベントの振興とイベントによる産業振興に貢献する表彰制度である。本賞を協会のシンボル事業として継続可能な自主事業のスキームで、開催するべく計画を進めてきた。その段階で、(株)テー・オー・ダブリュー殿（以下T社）から創立30周年にあたり業界への謝意を表し、業界の発展を支援するという趣旨で、「日本イベント大賞」への協賛（資金、人的協力）の申出を受けた。これに対しT社を特別協力者に位置づけ、「日本イベント大賞」の枠組みに、T社の意向である直接イベントに携わり、顕著な成果を挙げた個人や事業者の顕彰を行う「制作賞」の新設、および事務局支援を受けることとした。また、会員に対し任意の協賛として資金面の支援をお願いして実施することとした。

特に協会のシンボル事業として広報と告知を強力に進め、応募作品の確保、協会の知名度向上、会員へのアピールに結び付ける。

第2回 日本イベント大賞 計画概要

事業の目的

「日本イベント大賞」は、イベント産業における新しい市場創造と優れたイベント人材の発掘を目的とし、イベント振興とイベントによる産業振興のため、将来にわたって継続していく事業として、第2回目の「日本イベント大賞」を実施する。

主催 / 協賛・協力・後援（予定）

主 催	社団法人日本イベント産業振興協会
特別協力	株式会社テー・オー・ダブリュー
協 賛	会員各社
協 力	日本イベント業務管理者協会、日本イベントプロデューズ協会、イベント学会、業界紙・誌、展示関連団体、日本観光協会 等
後 援	経済産業省、NHK

応募関係

応募対象期間	2005年9月 ~ 2006年8月 終了したもの
応募方法	応募用紙と映像5分以内のCDまたはDVD
募集期間	2006年4月 ~ 2006年9月末

表彰

・日本イベント大賞

優れた内容を持ち、主催者の目的を達成して社会に貢献したイベント、あるいは企業活動に大きく寄与したイベントを表彰（大賞1本、準大賞3本）

・制作賞

イベントの企画・制作・実施に携わり、優れた成果を挙げた人材または企業・団体を表彰（3本 賞金100万円）

本賞は会員の㈱テー・オー・ダブリューが2006年に創立30年を迎えるにあたり、業界へ感謝の意を表し、業界の発展を支援する主旨により設定するもの。

審査

・第1次審査 応募作品から約100本を選考

・第2次審査 1次選考作品から大賞候補10本、制作賞候補10本を選考

・最終審査 2次選考作品の中からプレゼンテーションを実施し、大賞（1本）、準大賞（3本）、制作賞（3本）を決定

スケジュール

・2006年 4月 告知・広報の開始、応募の開始

・2006年 9月 応募の締切

・2006年10月 上旬 - 第1次審査会 下旬 - 第2次審査会

・2006年11月 最終審査会（11月22日予定）

・2006年12月 プレス発表

・2007年 1月 表彰式

2. セミナー事業の収益拡大

公益法人として各種のセミナーは、会員サービスや業界支援の側面および事業面から確立が期待される事業である。昨年、実施した「イベントマネジメント」や「スキルアップ」セミナーは、小規模ながら好評で着実に収益を確保した。今年度も業界向けを中心に顧客リストの整備、科目の拡大、開催日程の公開を進め、受講者確保と効率的な運用を図る。下期には協会を挙げた話題性のあるテーマの「JACE特別セミナー」や「イベント大賞」応募作品に材をとったセミナーを計画している。会員、業務管理者を超えて体外的に広く展開し、協会をアピールしていく。

3. 地域活性化とイベント（集客交流）プロジェクト

集客交流サービス事業の推進に何が出来るか、可能性も含めて協会としての「地域活性化サポートプログラム」を検討していく。今日、イベントのマンネリ化、集客力の低下という事態が各地で起こっている。地域代理店や業界団体の地域支部、NPO等共通認識を持つ組織、グループと中期的視点のプロジェクトを立ち上げ、自治体をサポートする、売込めるプログラムを考えていきたい。

3．調査研究事業

イベントの役割は集客、伝達（コミュニケーション）といった機能だけでなく、社会や技術諸課題の実験場という側面がある。こうした点を考えるとイベント自体の役割はますます大きくなっている。イベントの活性化やイベントによる産業、地域振興というテーマにとって、イベントの基礎データの整備は重要な要素である。特に現場に近いところからの情報収集やネットワークの活用による効率的データ収集を進める必要がある。調査研究分野では、これらデータベースの活用によるマクロ集計、分析、動向の調査は勿論、成功イベントの発掘や紹介を通じてイベントの役割、機能への提言、イベントの活性化にも繋げていく。

1．市場規模推計とイベント情報ファイル

継続事業として実施してきた市場規模推計と情報ファイルは、昨年、協会財政難から中断せざるを得ない事態になった。しかし、こうした事業は継続、蓄積が最大のポイントであり、また公益法人として果たすべき事業と認識し、一昨年構築した調査方式、推計方法をベースに中断したデータを加えて発行する。18年度は新方式によるデータ集計、推計方式の2回目であり、前回との比較分析にポイントを置いて進めていく。協会独自のデータベースとして、タイムリーなレポート、分析情報の発信を試行する。こうした調査は費用負担も大きく、費用効率の改善が要請されており、レポートの統合、部数削減、セミナー他による費用回収を図っていく。

2．イベントの実態についての独自調査

「日本イベント大賞」の活動ともリンクさせ、成功イベントや注目すべきイベントの取材、分析、評価を行い、研究レポート等を通じて関連機関、関係者に発信していく。将来的には自治体団体、運営施設への横展開、支援事業化を指向する。

3．受託研究調査

17年度は横浜市から「横浜開港150周年記念イベント企画設計」を受託、18年度にも「開港150周年記念事業」に関し随意契約による受託事業を目指している。平成21年（2009年）まで3年という時期になり、より具体的な動きが出てくる。一方で会員他向けにマルチクライアント型の調査研究についても提案していきたい。

4．セミナー・研究会の実施

協会のセミナー体系にも組み込み、メニュー化を推進する。前述のイベント市場規模調査データをベースにした研究発表会、会員各社のイベント動向研究セミナーを開催する。また、「イベント発想法」「成功イベント裏事情」「イベントの訴訟問題」等、イベント関係者向けテーマの研究会を開催し、関係者交流を図っていきたい。

2 . 普 及 事 業

1 . 情報提供事業

イベントやイベント産業に関する各種の情報を収集し、情報発信機能の拡充を図る。

1 . イベント情報誌「クリエイティブイベント」の発行

昨年度、休刊したイベント情報誌「クリエイティブイベント」を再開、年4回の発行を予定している。各号のテーマを明確にして協会の存在、活動のアピールとともに、会員勧誘や資格試験受験者等への営業ツールとしての利用価値を高める。

2 . イベント情報提供サービス

協会ホームページに新たな検索エンジンを設置し、総合的な情報Webサイトを構築する。これにより効率的な検索システムを提供して、ホームページへのアクセス件数の増加を図る。協会のホームページに、会員のイベント情報や他のイベント情報などのリンク集を提供し、情報の共有を図っていく。また、申請機能の強化、掲示板を設置、双方向の活用ができるようシステムの拡充を実施する。

2 . 広報・普及啓発事業

協会の催し、セミナー、資格試験等の活動にリンクした広報活動を展開する。イベントやイベント産業に関する普及啓発に資するとともに、会員相互間の交流促進に努める。

1 . イベント及びイベント施設等の視察

話題性・注目度の高いイベントやイベント施設の現地視察並びに関係者へのヒアリング等の研修を行い、イベントに関する知見を広め、併せて参加者や団体との交流を深める機会とする。

2 . 広報活動の強化

「日本イベント大賞」の広報を業界紙はもとより、一般紙誌にも広げた活動を行う。業界向けに(株)宣伝会議、日本実務出版(株)、(株)ピーオーピーとの関係強化を図る。また、フジサンケイグループ、NHKなど一般媒体への働きかけを強化して、協会知名度の向上を推進し、事業や会員拡大に結びつける。

3 . 関連団体との交流

関係の深いイベント学会、日本イベントプロデューズ協会（J E P C）、日本イベント業務管理者協会（J E D I S）との交流、情報交換、業務支援を積極的に進める。

3 . 会 員 活 動 事 業

会員活動事業の活性化を図るため研究会、部会を活動の単位として情報交換、研鑽、施策提言、普及啓発、内外交流など諸活動を積極的に行うこととする。新年懇親会については「日本イベント大賞」表彰式を兼ねた形で実施する。

4 . 委 員 会 活 動

1 . 事業運営委員会

協会事業の運営、推進に関する審議提言等の機関として、総務委員会及び各事業に対応する委員会を常設して運営する。

2 . 特定事業委員会

各種テーマの調査研究や本年度の特定事業を実施推進するため、試験委員会、テキスト編集委員会、セミナー委員会、イベント大賞運営委員会等の特定事業委員会を個別に設置し運営する。

5 . 会 員 拡 大 活 動

協会の緊急課題は会員拡大であり、会員拡大に向けた戦略の企画、活動を推進、展開する。コンベンション施設、地方イベント企業、宴会場を持つホテル、コンテンツ産業等の成長業種、地域団体等をターゲットに、理事会社をはじめ会員各社の力も借りて会員の拡大に全力を傾けたい。